

## 25年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 10月20日～ 11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は16社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月	
入荷動向	スギ	△ 8.3	0.0	△ 4.2
	ヒノキ	△ 10.0	△ 15.0	△ 20.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 100.0	△ 75.0	△ 50.0
消費動向	スギ	20.8	20.8	20.8
	ヒノキ	5.0	0.0	10.0
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	25.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 45.5	△ 36.4	△ 36.4
	ヒノキ	△ 50.0	△ 43.8	△ 50.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	0.0

入荷は、スギは11月の減少から12月の横ばいを経て26年1月には減少、ヒノキ、カラマツ及びトドマツは減少傾向で推移。

消費は、スギ、カラマツ及びトドマツは増加傾向で推移、ヒノキは11月のやや増加から12月の横ばいを経て1月には増加に。

在庫は、スギ、ヒノキ及びカラマツとも減少傾向で推移、トドマツは11月の減少から1月に向け横ばい。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
スギ	68.2	50.0	27.3
ヒノキ	88.9	50.0	38.9
カラマツ	100.0	100.0	100.0
トドマツ	25.0	50.0	50.0

原木価格は、全ての樹種において上昇傾向続く。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)・原木入荷困難、出材が少ないのか他へ流れているのか不明。原木在庫に赤信号、フル稼働した場合4～5日で底をつく状態。・スギ、ヒノキとも丸太少ない。生産はヒノキ横ばい、スギ増加。ヒノキ材少ないためスギ材でカバーしていたが、ここに来て共に少なくなった。・ヒノキのみの取り扱いだが、地域を問わず材が集まらない。販売好調、キャバ以上の注文入り納期未定も出ているほどで消費についてもMAXの生産。入荷即生産の状況。・ヒノキは単価が上がったためか入荷若干増加傾向。ヒノキの仕事は多い。・天候不順、間伐対象地の減少、高齢級間伐の弊害によりカラマツ、トドマツの原木入荷極端に悪い。需要動向先月同様も、パレット、梱包用にもトドマツが使われるようになってきている。12月までは在庫は増える状況にない。・どこの工場も注文を一杯抱えているが丸太価格高騰しているのに出材増えない。受注増に合わせて増産したいが丸太出材と乾燥機の能力がネックになっている。在庫積み増したいが余裕ない。・スギ、ヒノキは合板向けと輸出向けで逼迫。消費は駆け込み需要。・スギは仕入れ価格高騰、市場等への入荷難しい。工場の残業時間増やしている。・毎月順調に入荷、原木市場から入荷している、製材所には出荷量はあるが値上りのため思うように仕入れできないとの声ある。消費は今年に入り地場向け注文は落ち着きつつあるが県外注文が増え年内から1月まで残業対応で消費増の見込み。虫害丸太が今年はひどく残っている、在庫量は先月と同量。・入荷は悪天候のため山土場からの運材難しく、丸太不足顕著、値上がり傾向、消費は丸太不足で受注控える。・入荷は出材量も目立った増加なく最高値を更新している、出材が大幅に増えないため手当て量も通常ペースとなっている。消費は原木在庫は低水準のまま推移しており増産量は微々たるもの。在庫量は微増だが冬場までにもう少し上積みしたいが出来ていない。・ヒノキ原木が最近急激に値上がり、仕入れ困難となる。消費は冬期凍結のため減産となる。・原木市場への入荷が半分しかない。間伐補助事業が大きく影響。・入荷は正月休み、雪当で12～1月は仕事日減少し増加は見込めない。製品の売れ行き良好のため引き合い強い。在庫は少なめで推移と予想。

(原木価格) ・原木市場では協定価格制度が機能しない状態になっている。 ・スギ、ヒノキ全てにおいて高い。 ・ヒノキ高すぎて、正直きつい。 ・ヒノキは出材やや増加傾向で価格頭打ちの状況。 ・カラマツ、トドマツ共11月より仕入れ価格改定。 ・スギ、ヒノキは製品価格遅ればせながら上がっているが既契約分の逆ざやがひどい。 ・スギは3,000~4,000円/m<sup>3</sup>高くなっている。 ・柱用丸太も値上がり、特に中目丸太は16,000円/ m<sup>3</sup>近く、量も多くは出ていない。 ・全道的に丸太不足、公売は高騰。 ・原木高値が継続、出材の大幅増がない限り価格の高止まりは続きそう。 ・各製材工場では原木在庫なく、市場で取り合いになっている。

## 25年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
生産動向	スギ	12.5	20.8	20.8
	ヒノキ	△ 10.0	△ 15.0	△ 10.0
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
出荷動向	スギ	33.3	33.3	12.5
	ヒノキ	5.0	0.0	△ 15.0
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 54.2	△ 37.5	△ 20.8
	ヒノキ	△ 75.0	△ 50.0	△ 40.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

生産動向は、スギ及びカラマツは増加傾向で推移、ヒノキ及びトドマツは1月に向けおおむね減少傾向続く。

出荷動向は、スギ及びカラマツは増加傾向続く、ヒノキは11月やや増から1月に向け減少に、トドマツは11月の増加から1月に向け横ばい。

在庫は、全ての樹種において減少傾向続く。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	62.5	41.7	20.8
	柱角 KD12×3	58.3	41.7	16.7
	通し柱 12×6	38.9	33.3	16.7
	桁角	45.5	31.8	13.6
	母屋角	59.1	40.9	22.7
	タルキ	45.0	30.0	15.0
	間柱	54.5	36.4	18.2
	ヌキ	40.0	30.0	15.0
	平割	45.0	30.0	15.0
	ラミナ	50.0	37.5	12.5
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	81.8	63.6	45.5
	柱角 KD12×3	77.3	63.6	40.9
	土台角 10.5×4	77.3	68.2	45.5
	土台角 12×4	75.0	60.0	35.0
	通し柱 12×6	64.3	57.1	35.7
	ラミナ	62.5	50.0	33.3
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	100.0	100.0	
〃 ラミナ	0.0	100.0	100.0	
(	—	—	—	

スギ及びヒノキ製材品出荷価格は総じて強含みないし強保合で推移。

カラマツ梱包材及びラミナは11月の横ばいから12,1月は強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動) ・原木不足により生産が存分にできない。出荷は原木不足で受注に応じた生産・出荷ができず。主製品在庫は大幅に減少、B品及び手付かずの側板半製品の在庫の割合が増えてきた。・目先にある物を挽く、注文材に対応できなくなっている。ある商品は全て出荷。・ヒノキは月初で半月分の注文あり。明確な納期回答ができない量の注文がある。ヒノキは仕上げ生産、当日生産、当日出荷が続いている。ヒノキ在庫は造作、角製品はほぼないが、側板、グリーン材はサイズにより少しある。・ヒノキは受注と素材入荷がギリギリのところ。ヒノキはA材、B材共順調に出荷。ヒノキは出荷多く在庫やや減少。・カラマツ、トドマツともフル生産体制だが適材乏しく生産性悪い。・スギ、ヒノキ製材品は乾燥機的能力無駄なく使い増産したい。1月からは3台増設・稼働見込みも、丸太確保できるかどうか。作る方が注文に追いつかない。何年もなかった状況。在庫できる状況にない。・スギ、ヒノキ全品目動き活発。・注文かなり増え、稼働時間延長。生産追いつかない。・生産は特に乾燥材の注文が増え、生材と共に生産増である。出荷は県内の注文が1段落したが、県外からの注文が年内中ある、プレカットを中心とした注文で特に羽柄材が多い。注文増に対応するため残業時間増やして在庫も増やしている。・生産は冬季になるため生産減となる。生産に合わせた出荷で在庫なし。・製材量増が描けないため製品生産もさほど増えない。11月も出荷は旺盛、12月以降も堅調推移とみる。依然として回転率高く低水準の在庫が続く見込み。・生産はスギ材は今後若干増、ヒノキは原木不足続き、減産と思われる。・スギ製材品は注文多いが原木集まらず増産できない。

(製材品出荷価格動向) ・スギは商社経由で販売しているため価格上がらず、ヒノキは受注残が消化できるまでは値上げの要求は通らない。ラミナは単価が上がる見通しが無い。・スギ、ヒノキ共に引き合い強い。生産追いつかず、原木はなお追いつかず。・ヒノキ角は5,000~7,000円/m<sup>3</sup>の上げが必要。・カラマツ、トドマツ梱包材・ラミナ共12月より製品価格改定する。・スギ、ヒノキ製材品は注文だけ出荷できず待っていただいている。通し柱は丸太出材が増えず、従来のように注文を受けることできない。梁、桁も順調過ぎる受注、納期を待っていただいている。特にヒノキ柱、土台については異常な状況。ヒノキラミナは注文生産で10、11、12月と大口受注。・スギ柱10.5×3m角KDの九州市況はm<sup>3</sup>単価47,000円が52,000円となった。スギ母屋角は原木高騰、製品が流通できていない。・エゾマツサンギは値上げに動く7,000から3000円/m<sup>3</sup>。・スギの製品価格も押上げが通りだし今月からは相場の居場所が固まるか?。ヒノキは土台を中心に大幅な値上がり。・当月はスギ母屋角が特に不足、ヒノキ柱角は当分不足、ヒノキ集成材の用途が増加、当分不足。ヒノキKD90母屋角は、2×4の土台等用途増加し価格も上昇。・スギ製材品はこれ以上上げるとWWよりも高くなってしまふ。製材品価格上がりすぎるのは原木がないため。スギ間柱はWWを超えてしまった。スギラミナは値上げが通らないので生産中止。・原木少ないため製品もかなり品薄で、やや上昇。・丸太高騰が続くが製品相場への反映スローペース、上げ方向で営業中。

## 25年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	25.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	0.0	△ 25.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	25.0	25.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

仕入れは米マツ丸太は、11月の横ばいから12月の増加を経て1月には横ばいに、NZラジアータ丸太は11月の横ばいから12、1月には増加に。

消費は米マツ丸太は、11、12月の横ばいから1月には減少、NZラジアータ丸太は増加傾向で推移。

在庫は米マツ丸太は11月横ばいから12、1月には増加に、NZラジアータは11、12月横ばいから1月には減少。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
米マツ丸太	75.0	75.0	50.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

原木購入価格は米マツ丸太は上昇傾向、NZラジアータは11月横ばいから12月、1月は上昇傾向に。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータ丸太は先月末より注文量増加。

(原木価格動向)

- ・ラジアータは中国向け値上げにより日本向けも値上げ。

## 25年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
生産動向			
米マツ製材品	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	0.0	△ 25.0	△ 25.0
NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	△ 25.0	△ 25.0	0.0
NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

生産動向は米マツ製材品は減少傾向で推移、NZラジアータ製材品は増加傾向で推移。

出荷は米マツ製材品は11月横ばいが12、1月には減少に、NZラジアータ製材品は増加傾向で推移。

在庫は米マツ製材品は11、12月減少が1月には横ばい、NZラジアータ製材品は減少傾向で推移。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
米マツ平角	0.0	0.0	△ 25.0
米マツ正角	△ 25.0	△ 25.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	50.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)	50.0	50.0	50.0
NZ土木用材	50.0	50.0	50.0
その他	—	—	—

米マツ平角は11、12月横ばいが1月はマイナスに、米マツ正角は11、12月マイナスが1月横ばいに、米マツ小割は横ばいで推移。

NZラジアータ製材品は総じて強含みで推移。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・NZ製材品は先月末より注引量増加。

(製材品出荷価格動向)

- ・次第に値上げ浸透。